

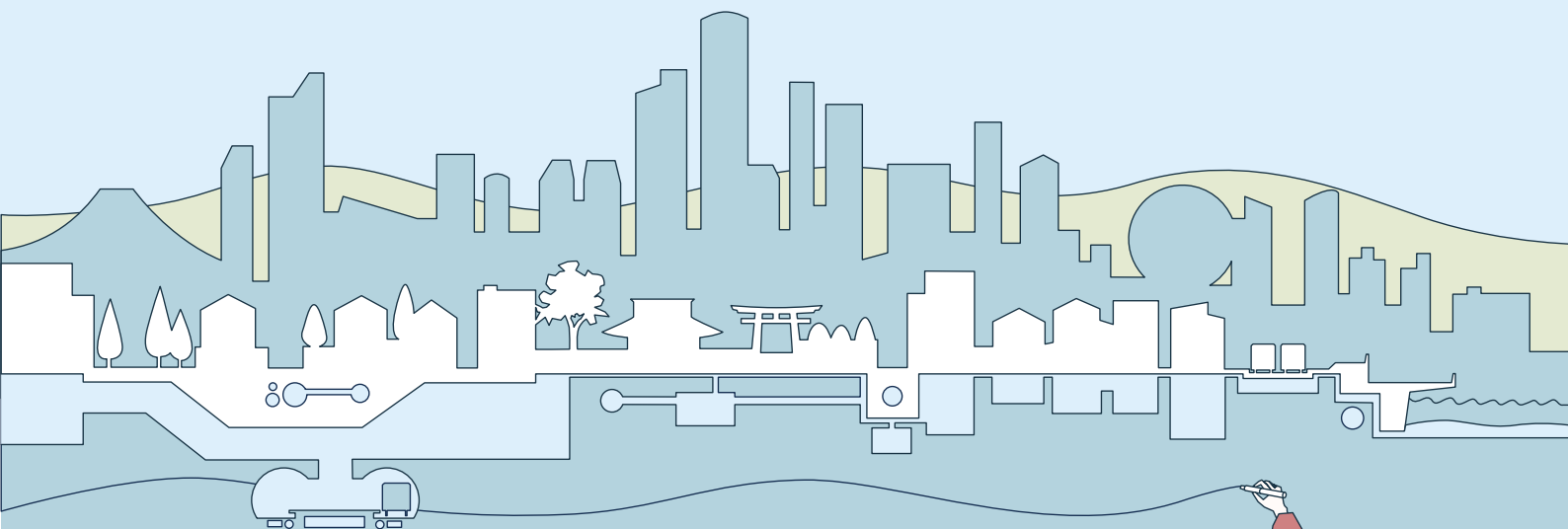
UTdUE

東京大学工学部
都市工学科

Department of Urban Engineering
The University of Tokyo

2025 進学ガイダンス

2025 Enrollment Guidance



都市環境工学コース

Urban Environmental Engineering

都市計画コース

Urban Planning



都市工学科の概要

都市工学科は、現代の社会的要請に応えるために設立された工学部の中では新しい学科です。都市問題及び環境問題の重要性が広く一般に認識され、1962年に学科が発足し、1966年に第1回卒業生を送りだしました。また、1966年には大学院修士課程が、1968年には博士課程が開設され今日に至っています。この間約2000名の卒業生を送りだし、多くは、省庁、自治体、独立行政法人、建設、不動産、商社、金融、保険、製造業、コンサルタント等多様な分野で専門を活かしながら活躍しています。大学院に進学する学生も多く、学部卒業生と同様の分野の他、大学や研究所等で活躍しています。自治体の首長や助役として活躍する卒業生が増えつつあることも近年の特徴です。

都市工学科には、都市計画コースと都市環境工学コースとがあり、それぞれが環境問題や都市問題を解明するための専門のカリキュラムを組んでいます。都市工学科設立の目的は、都市のフィジカルプランナー（すなわち物的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者）の教育・養成、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよびます。また、工学技術にその基盤を置くことは当然ですが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野です。

目次

Index

📄 コース概要

🕒 時間割と演習

👤 卒業後の進路

💬 学生の声

👥 教員紹介

P 03

P 13

P 05

P 15

P 10

P 20

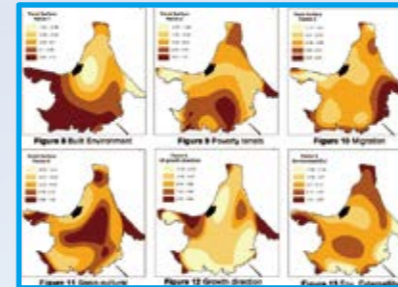
P 11

P 21

P 23

P 25

都市を支える都市環境工学



カルカッタの Quality of Life解析



震災がれき・廃棄物の処理



東京湾の水質モニタリング



メダンにおける公衆衛生調査
(インドネシア)



国際色豊かな研究環境



生物学的排水処理技術の研究開発

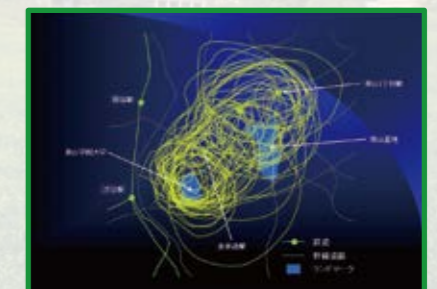
都市を構想する都市計画



自治体の土地利用計画の検討



ブッダ生誕地ルンピニの
都市計画改訂調査(ネパール)



「青山はどこ？」頭の中の地域イメージ



インド農村部におけるNGO活動の調査



公共交通指向型の都市づくり
(ブラジル・クリチバ)



被災地でのコミュニティスペースの
創出とマネジメント

都市環境工学

Urban Environmental Engineering

～安全かつ快適な都市環境を将来世代にわたって創出していく～

本コースの源流は、明治26年(1893年)に発足した土木工学第四講座(衛生工学)で、東京大学に講座制が導入された当初の123の講座のうちの一つです。1962年の都市工学科設立とともに、衛生工学コースとして学部教育をスタートしました。当時は水質汚濁、大気汚染などさまざまな公害が問題となっていた時代であり、水供給や廃水・廃棄物の管理、水質汚濁の解析など、我々の生活環境を守るための技術やシステムが我々の研究領域でした。その後環境に関する問題は、従来の公害から、オゾン層の破壊や地球温暖化などの地球規模の環境問題、生態系の保全、微量化学物質による環境汚染、循環型社会の構築など多様化しました。また、バイオテクノロジー、環境計測・分析技術、情報技術などの科学技術の発展もめざましく、環境現象の解析や環境問題の解決のためにこれら新しい科学技術が応用されるようになりました。

環境問題の拡がりに合わせ、本コースの名称も、「環境・衛生工学コース」、さらには「都市環境工学コース」へと変更し、現在に至っています。しかし、本コースの目指すところは一貫して、都市の内部だけでなく我々の生活の場、生産活動の場全てを対象に、安全かつ快適な生活環境を将来世代にわたって創出していくことです。そのために、専門知識を基礎にして新しい科学技術や知見を取り入れながら、適切な技術やシステムを開発し、それをどのように実社会に展開すべきかを提案することが「都市環境工学」の使命です。

都市環境工学コースでは、社会において起きている問題、将来起きることが想定される問題など現場に即したことを学びます。現在の、そして50年後、100年後のより良い都市環境を創出し、持続していくための技術を、本コースでともに学び、考えましょう!

- 1 環境汚染の機構の解明と環境の修復・保全
- 2 持続可能な発展を支える都市システムの提案
- 3 バイオテクノロジーの環境問題への適用
- 4 安全かつ快適な生活環境を創造する技術やシステムの開発



時間割

Curriculum



都市環境工学コースの時間割では、より実際的なプロジェクト形式の演習科目や、環境調査・環境技術の基礎となる実験科目のみが必修であり、講義選択の自由度が高いことが特色です。皆さんの興味に応じた、さまざまな時間割を組むことが可能です。

2年 A1A2 タームの標準的な時間割 (令和6年度)

	月	火	水	木	金
1限	地球環境工学 (A1)			都市デザイン概論 (A2)	都市計画概論
2限	基礎流体力学 (A1) 環境公衆衛生 (A2)	構造の力学 (A1)	都市交通論	基礎流体力学 (A1) 都市デザイン概論 (A2)	構造の力学 (A1) 都市情報科学概論 (A2)
3限	都市環境概論	緑地計画概論	環境水質化学	環境計画 基礎演習	環境計画 基礎演習
4限	基礎統計 (A1) 社会調査法 (A2)	都市居住概論			
5限		情報学概論 (A1)			

3年 S1S2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限	応用水理学		生態学・ 生態工学	環境微生物工学	Introduction to Sustainable Urban Engineering
2限	都市住宅論	広域計画	土地利用計画論	都市・ まちづくりと法	水環境学
3限	応用統計 (S1・3限) 都市工学数理 (S1・4限) 都市工学の技術と倫理 (S2)	都市工学 演習 B 第一	環境反応論		
4限		都市交通 システム計画	環境工学 実験演習第一	環境工学 実験演習第一	
5限		Workshop towards Communicating Engineers			

3年 A1A2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限		まちづくり論		水質変換工学	
2限	都市計画史	都市経済		廃棄物 資源循環学	都市安全計画
3限	上下水道システム	都市工学 演習 B 第二	産業・生活と 環境技術		
4限	都市開発 プロジェクト論 (A1)		大気環境学 (A1)	環境工学 実験演習第二	環境工学 実験演習第二
5限					

4年 S1S2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限		まちづくりと情報			
2限		都市社会論		都市解析 (S1)	地区の計画と デザイン
3限	環境 システム解析	都市工学 演習 B 第三	都市工学 演習 B 第三	国際環境 公衆衛生 (S2)	都市工学 演習 B 第三
4限					
5限	アカデミック・ ライティング (S1) アカデミック・ プレゼンテーション (S2)	現代ツーリズム論 (S1)			

4年 A1A2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限					
2限	卒業研究				
3限		卒業研究		卒業研究	卒業研究
4限					
5限					

※都市環境工学コースの学生が一級建築士の受験資格を得るためには、上記の標準的な時間割に示した科目以外に、建築技術教育普及センターが確認した指定科目（建築学科提供科目を含む）を一定数履修する必要がありますが、カリキュラムの制約から、要件を満たすのは困難です。



多くの学生がそれぞれの興味や課外活動の状況などに応じて、履修科目を決めています。

※これらの例は、過去の学生の履修例を参考に記載していますが、新学事暦のもとで他学科・他学部の講義の名称や履修可能性は変化しているので注意してください。

できるだけ多くの単位を3年生までに取得するために、標準選択科目も含めて多くの科目を2年生のうちから計画的に履修しました。
本郷に進学後は、少人数で先生や院生と接する機会にもなるグローバル輪講も履修しました。



Aさんの2年 A1A2 タームの時間割

	月	火	水	木	金
1限	地球環境工学 (A1)	都市環境概論		都市デザイン概論 (A2)	都市計画概論
2限	基礎流体力学 (A1) 環境公衆衛生 (A2)	構造の力学 (A1)	都市交通論	基礎流体力学 (A1) 都市デザイン概論 (A2)	構造の力学 (A1) 都市情報科学概論 (A2)
3限	都市環境概論	緑地計画概論	環境水質化学	環境計画 基礎演習	環境計画 基礎演習
4限	基礎統計 (A1) 社会調査法 (A2)	都市居住概論	数学 1A		
5限		情報学概論 (A1)			

Bさんの3年 A1A2 タームの時間割

	月	火	水	木	金
1限	微生物遺伝学 毒性学	まちづくり論		水質変換工学	環境土壌学
2限	水圏生態学	水圏生物工学	微生物遺伝学 毒性学	廃棄物 資源循環学	水圏生物工学 水産資源学
3限	上下水道システム	都市工学 演習 B 第二	産業・生活と 環境技術		
4限		都市工学 演習 B 第二	大気環境学 (A1)	環境工学 実験演習第二	環境工学 実験演習第二
5限	生物統計学				

生物に興味があったので、農学部などの他学部科目も積極的に履修しました。卒論や大学院進学後の研究でも環境バイオの研究に取り組みました。



Cさんの3年 S1S2 タームの時間割

部活動があったので、計画的に単位取得の時期を4年次にずらしました。部活動と両立できて、とても満足しています。



Cさんの4年 S1S2 タームの時間割の例

	月	火	水	木	金
1限				環境微生物工学	
2限	都市住宅論	広域計画		都市・ まちづくりと法	水環境学
3限	応用統計 (S1・3限) 都市工学数理 (S1・4限) 都市工学の技術と倫理 (S2)	都市工学 演習 B 第一	環境反応論	環境工学 実験演習第一	環境工学 実験演習第一
4限					
5限					

2年 R1R2 環境計画基礎演習



多面的な環境問題の理解

環境問題は多様な要因がきわめて複雑に絡み合っています。専門課程で最初に行われるこの演習では、環境問題を科学的にとらえて整理する方法や考え方を身につけます。前半では、地球温暖化対策や廃棄物問題などの環境問題を取り上げ、グループ間で環境対策の是非を問うディベートを行い、賛成側、反対側の論点を理解します。さらに課題と解決策を図として構造化して理解を深めます。後半では都道府県を対象としてエネルギー消費や環境負荷を評価します。各都道府県の規模や産業構造、市民のライフスタイルといった都市活動の特徴付ける要素との関連を調べることを通して、環境問題を定量的かつ俯瞰的に捉える方法を学びます。



環境問題の構造化

都市工学科の演習は駒場の演習とまったく違います。理系の知識を生かし、初対面となったクラスメートたちとチームを組んで議論したり発表したりして、環境問題に対する理解を深めながら、みんなと仲良くなったことが非常に有意義だと思います。(3年生, T.R.)

文献調査やエクセルを用いたデータ解析など、環境問題を学問として扱う基礎を身につけるとともに、ほぼ初対面の同期と親交を深めつつ、複数人で意見をまとめていく手法を学びました。3年生以降の本格的な演習・実験の足固めができたと思います。(4年生, N.M.)

CO2発生の原因や環境への影響をグループワークで調査・発表することで、環境問題について皆で考えることができました。知識を深めながら学科の仲間たちと仲良くなることができ、非常に良かったと思います。(4年生, J.Y.)

輪講等 都市工学輪講 / 都市工学グローバル輪講 / 都市工学の技術と倫理 / インターンシップ



輪講で様々な知識を吸収

輪講は、あるテーマに沿って本や文献を読み、お互いに発表し合いながら学んでいく形の演習です。最新の知見を得るのはもちろんのこと、英語の文献を読んだり、あえて異分野の教科書に挑戦したりして幅広い知識の獲得を目指しています。グローバル輪講は、留学生を交えて行われ、英語を実践的に学ぶ機会にもなっています。インターンシップは、夏期休暇を利用して、都市工学に関連の深い企業や公的団体などで研修をさせていただくものです。授業で学んだ知識を現場で深めることが出来る機会として好評です。都市工学の技術と倫理では、都市工学科三年生の希望者を教員が引率し、都市工学に関連の深い場所を見学します。2011年度は、東日本大震災の被災地や、被害を受けた下水処理場を訪れ、災害時の対応や今後の都市計画のあり方について議論を交わしました。



現場力を鍛える都市工学実習

私はH株式会社で2週間インターンシップを体験しました。社員の方々と同じ環境で作業をすることでペロッパーの業務について理解を深めることができ、非常に有意義な経験になりました。(4年生, M.A.)

私はT水道局で2週間インターンシップを体験しました。下水処理の実際の現場を見ることができ、大変貴重な体験でした。現在は水処理関係の仕事に就いていますが、そのときの経験が大いに役立っています。(4年生, O.Y.)

都市工学の技術と倫理では、北関東周辺において宇都宮の街づくりの概要や足尾銅山跡の環境修復の状況などを1泊2日で学習しました。現場に向かい、先生の説明を聞いたり、学生同士でいろいろ話すなど、とても良い経験になりました。(修士1年, I.T.)

3年 S1S2 都市工学演習 B 第一 & 環境工学実験演習第一



基本的な水質・大気分析方法を習得

3年S1S2タームの演習・実験では、都市における水環境の保全対策の策定方法やさまざまな環境汚染の度合いを表す指標の基本的な測定方法を習得します。さらに、身近な環境中における汚染物質の動態の把握やそれらがもたらすリスクの評価を通して、自然環境と人間社会がどのような相互作用をもたらしているかを理解し、どのような都市環境を創出していくべきかを考えます。演習、実験はそれぞれ学部生専用の演習室・実験室において、行われます。これらの演習・実験を通し、情報収集の方法、データの整理、報告書作成、口頭発表の手法など、研究者やエンジニア、あるいはプランナーに必要とされる基本的な技術を習得することができます。



チームワークで課題に挑む

3年夏学期の実験・演習で、環境に関するリスク解析や基礎的な実験方法を学びます。これにより、一見複雑で分かりにくい環境問題を分かりやすい形(数値化やグラフ化など)に変える力、いわゆる「環境問題を把握する基礎的な力」を身につける事ができたと感じました。(3年生, T.I.)

私は3年夏学期の様々な水質項目を測定する実験がとても印象に残っています。高校や駒場での化学実験と違い、都市環境工学コースでの実験は環境試料の水質測定がメインです。実験で学ぶ内容と自分達の生活とが非常に近く感じられ、充実していて楽しかったです。(4年生, K.S.)

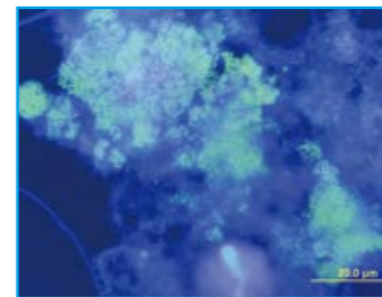
学生実験・演習で学んだ環境調査の計画策定～調査・実験～考察までのノウハウは、参考書からは学べない、「研究力」の基礎を与えてくれました。実験の作業手順や解説が丁寧に書かれた実験テキストは永久保存版です。(修士1年, K.N.)

3年 R1R2 都市工学演習 B 第二 & 環境工学実験演習第二



フィールドで経験を積む河川調査

3年A1A2タームの演習・実験では、S1S2タームに学んだ知見を生かして、より実践的な課題に取り組みます。具体的には、(1)河川調査、(2)下水処理実験と下水道計画、(3)浄水処理実験と上水道計画、の3課題を学びます。(1)の河川調査では、実験室を飛び出して実河川でのフィールドワークを行うことで、環境研究のセンスを養うことができます。また、(2)の下水課題と(3)の浄水課題では、実験と演習が密接に関連し、実験データを施設設計に生かしたり、施設設計で得た知見に基づき実験条件を検討したり、柔軟な発想が求められます。さらに、実際に稼働中の下水処理場や浄水場を見学し、実験演習課題で学んだ知見が現実社会でどのように生かされているのか、総合的に学ぶことができます。



下水処理を担う微生物の観察

ハードとソフトの両面から下水道を深く学ぶことができました。特に活性汚泥による廃水処理実験では、普段目に見えない微生物の動きを水質浄化作用から見る事ができ、座学にはない貴重な経験となりました。また、現場見学では数理モデルとの違いを認識しさらに理解が深まりました。(修士2年, H.O.)

水の病原微生物対策を研究テーマとしています。東日本大震災の被災地や発展途上国などで、どうやって安全な水を供給していくのか、問題解決のための基礎は全て学部の実験・演習で身につけました。水浄化のための多様な手法や、それらのメリット・デメリットについて、和気藹々とした雰囲気の中で学べました。(3年生, G.Y.)

実験室内や演習室内だけではなく、河川調査などは、実際のフィールド(現場)に出て行うことが特徴的だと思います。自分たちの生活と都市環境とのかかわりを自らの体験として学ぶことができるのが、都市工学科での実験・演習のいいところです。(3年生, T.K.)

4年 S1S2 都市工学演習 B 第三



都市環境を定量的に評価

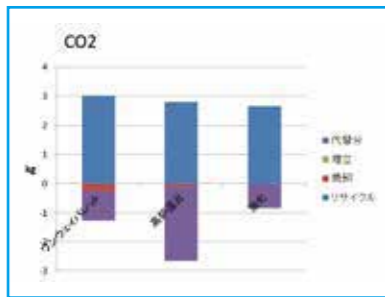
都市工学演習B第三では、前半の課題として、都市環境の定量的評価を行い、それに基づいて都市の政策の提言などを行います。ここ数年は廃棄物処理・リサイクルシステムを対象としています。具体的には、ライフサイクルアセスメント(LCA)という手法を習得し、モデルとなる都市を班毎に選んで温室効果ガス排出量などを評価します。また、さまざまな施策を想定してシナリオを作成し、その温室効果ガス排出抑制効果を比較することで理解を深めます。個人プレゼンテーション、班によるプレゼンテーションなどを課題ごとに取り入れており、それらを通じて定量的な環境負荷の把握の重要性を体得し、LCAのスキルを身につけることができるのも大きな特徴でしょう。

後半の課題では、卒業研究配属先の指導教員の下で、各自の卒業研究テーマに関わる研究論文や基礎的知見を収集・習得し、一人ひとりが研究課題に関する発表・質疑を行います。

この演習では問題をどのように捉え、解決するかを試行錯誤を積み重ねつつ学ぶことができました。その経験が、後に研究や論文を執筆する際にとても役立ちました。行き詰まった時も先生方から親身なアドバイスを頂き、学ぶ上で非常によい環境でした。(4年生, S.Y.)

都市活動を鳥瞰的に捉え、対象をシステムとして様々な波及的影響を考慮する「ライフサイクル思考」を学びました。いかに論理的な評価を行い、より望ましい改善策を提示できるかという、どのような研究においても求められる重要なスキルを習得することができました。(大学院生, E.A.)

この演習を通して、目に見える影響だけに捉われず、その前後に隠れた影響(例えば、製品使用時だけでなく、製造時や廃棄時を含めた影響)までを考慮した総合的な判断をすることが身に付きました。このことは、環境問題を扱う研究者として、今でも考え方のベースになっています。(卒業生, A.N.)



リサイクルに伴う温室効果ガス排出量

4年 A1A2 卒業研究



都市河川の底生動物調査

S1S2タームに行った卒業研究課題の予備調査を踏まえ、A1A2タームには本格的に取り組めます。基本的にそれぞれが個別のテーマを持ち、実験、調査、シミュレーションなど様々なアプローチを使って学部教育の集大成である卒業研究を仕上げることになります。これまでの演習や実験とは異なり、各研究室に所属して指導教員や大学院生と相談をしながら、研究計画の立案から実施、取りまとめ、プレゼンテーションまでを自分でマネジメントします。テーマによっては海外調査をすることもあります。限られた時間の中での研究は、時に大変なこともあります。その分、成し遂げた時の達成感は非常に大きなものがありますし、一生の思い出になるでしょう。2月上旬には卒業論文を提出し、同中旬に発表会が行われています。

卒業研究では実験系のテーマを選択しました。自分自身の手でデータが得られる喜びを感じるとともに、日常的に大学院の留学生とコミュニケーションを取る必要性から自然と英語に慣れることができました。得られた研究成果より、そちらの方が貴重かもしれません。(卒業生, F.N.)

卒業論文では、これまでの授業や演習、実験などから学んだことを生かして、一人ひとりが全く新しいテーマに挑戦することになります。限られた時間の中、一つのテーマに集中して取り組み、それをまとめ上げるというのは、非常に良い経験になると思います。(4年生, Y.K.)

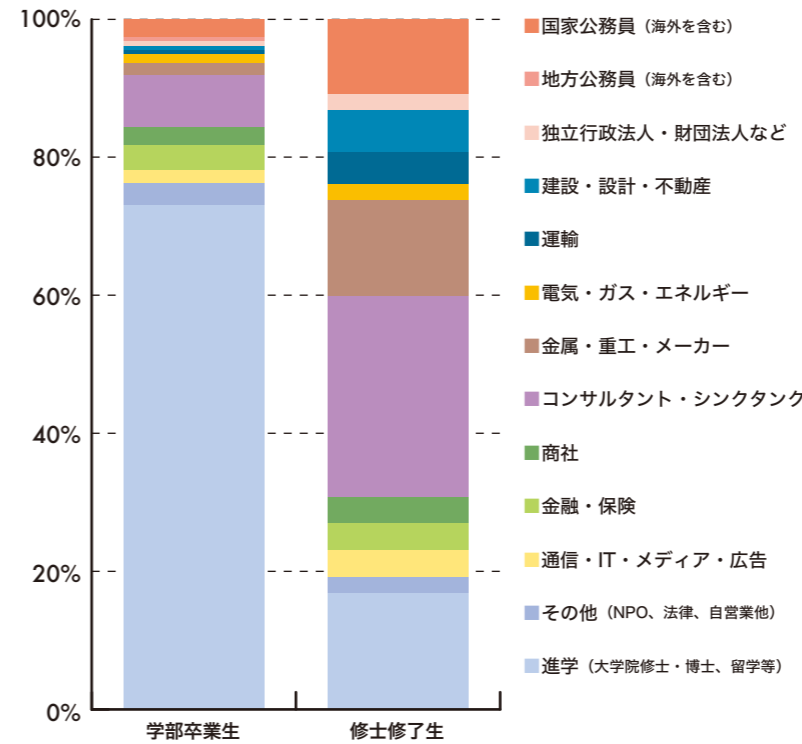
都市工学科での卒論は都市環境に関して国内外で強く必要とされている最新のテーマを扱っていて、公益を対象とする行政の仕事とも関連が深い分野です。行政の仕事は研究成果を世の中のために使っていく側の立場なので、研究を通じて学んだ知見がいろいろと活かされていると感じています。(卒業生, M.Y.)



高度な分析にも挑戦

卒業後の進路 Course

過去10年の都市環境工学コースの学部卒業生と修士修了生の進路を図にしたものです。専門知識が直接生かされる分野としては、公務員やコンサルタント、環境関連企業等がありますが、現在ではあらゆる分野・職種で環境に関する知識を必要としていることから、進路も多様です。



就職先の例

環境省	清水建設
国土交通省	北陸電力
経済産業省	トーエネック
財務省	JNC
愛知県庁	ソニー
都市再生機構	キャンノ
国際協力機構(JICA)	旭化成
水ing	IMAGICA
日水コン	住友商事
三菱総合研究所	三菱商事
野村総合研究所	三井物産
大和総研	三菱東京UFJ銀行
パシフィックコンサルタンツ	東京海上日動火災保険
ポストンコンサルティング	大和証券
ペインアンドカンパニー	メリルリンチ日本証券
マネージメントサービス	KDDI
ライテック	ヤフー
アクセンチュア	アマゾンジャパン
パシフィックコンサルタンツ	博報堂DYメディアパートナーズ
日本航空	三越伊勢丹

先輩からのメッセージ Message

柴田 智世
メタウォーター株式会社

「環境」「工学」「水」というキーワードに惹かれ、進学しました。第一人者の先生方に都市工学全体について指導いただきながら、国際色豊かな環境で研究テーマを掘り下げ、論文や学会発表で形に残せたことは、非常に得難い経験でした。卒業後は上下水道の官民連携事業にずっと携わっており、今でも自分の礎になっています。

清水 直
ソニー株式会社

「環境」という奥深いテーマを「都市」という身近な視点で学んだ経験は、大きな財産となりました。現在はメーカーで主に、製品に関するグローバル全体の環境法規制に対応する仕事をしています。ものづくりにおける「環境」の重要性はますます高まっており、都市工学科での学びや問題意識を様々な場面で活かすことができていると思います。

松原 直也
環境省

環境省では、気候変動対策や循環型社会の構築、水大気環境保全などの「環境」を軸に、世界を舞台にした国際交渉や制度づくり、地方公共団体に寄添う現場対応など幅広い仕事があります。都市工学科で学んだ環境全般に関する知識や、先生方や学生同士の議論で培った思考力、説明する力が大いに役立っています。

久山 哲雄
財団法人 地球環境戦略研究機関

世界から集まってくる研究員とともに水に関する政策研究をしながら、アジアの政策担当者に対する提言を行っています。都市環境工学コースでは、環境全般に関する教養が身に付くとともに、世界各国から集まってくる留学生との交流ができます。留学生との議論の場は今の仕事にも非常に役立っています。是非チャレンジして下さい!

細見 暁彦
国土交通省

国土交通省は、広く社会基盤分野全般に携わる行政官庁であり、技術系職員としての専門性ととも幅広い知識・関心・問題意識が必要となる職場です。実理と学理、地方と都市、現場での実践と論理的・俯瞰的な視点など、まさに都市工学科で学んだ考え方や姿勢が役に立っています。

島田 佳織
株式会社 三菱総合研究所

人間社会と自然の関わりを学びたいと考え、進学しました。卒業後は、シンクタンクの研究員として、気候変動対策・資源循環・自然資本を専門とし、官公庁や民間企業向けの調査・コンサルティングに取り組んでいます。環境問題は幅広く、ホットトピックの移り変わりも速いですが、都市工学科で身に付けた環境問題に共通する考え方が、今の仕事の土台となっています。

都市計画

Urban Planning

都市計画コースでは、時代とともに変化する都市の状況と課題に対応して、工学技術にその基盤を置きつつ、社会科学・人文科学の研究アプローチも援用しながら、多角的観点から研究を進めています。都市や都市を取り巻く農山村を含め、人間の生活空間の全体をどう作り、維持管理・改善するかという課題に取り組むため、都市や国土空間に関わる問題を、幅広い視点から総合的にとらえることを特徴としています。都市形成の仕組み、都市空間のデザイン、自然との共生等に関わる環境デザイン、広域圏の計画から都市・地区レベルの計画立案手法、都市の安全に関わる計画・対策、住宅問題・住宅政策、都市交通計画、都市空間に関わる人間行動の解析手法などを講義と演習を通じて理解していきます。



「都市」について考えることは、 この「社会」について広く考えること。

- 1 都市工学科は東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的に教育、研究している学科です。
- 2 分野別の「専門講義」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けます。
- 3 皆で集まってくらすかたち＝「都市」を考えることで、皆で作りだすこの「社会」が見えてきます。
- 4 都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成しています。

1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 2040 2050

時間割

Curriculum

都市計画コースのカリキュラムの中心は演習であり、現実の課題に取り組み自らの考えで都市を捉え構想する力を養います。この演習のみが必修科目であり、講義選択の自由度が高いことが特色です。皆さんの興味に応じた、さまざまな時間割を組むことが可能です。



2年 A1A2 タームの標準的な時間割 (令和6年度)

	月	火	水	木	金
1限	地球環境工学 (A1)			都市デザイン概論 (A2)	都市計画概論
2限	基礎流体力学 (A1) 環境公衆衛生 (A2)	構造の力学 (A1) 環境工学概論	都市交通論	基礎流体力学 (A1) 都市デザイン概論 (A2)	都市情報科学概論 (A2) 構造の力学 (A1) 科学概論
3限	都市環境概論	緑地計画概論	環境水質化学	都市工学 設計製図	都市工学 設計製図
4限	基礎統計 (A1) 社会調査法 (A2)	都市居住概論	数学 1A		
5限		情報学概論 (A1)			

3年 S1S2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限	応用物理学		生態学・生態工学	環境微生物工学	Introduction to Sustainable Urban Engineering
2限	都市住宅論	広域計画	土地利用計画論	都市・まちづくりと法	水環境学
3限	応用統計 (S1・3限) 都市工学数理 (S1・4限) 都市工学の技術と倫理 (S2)	都市工学 演習 A 第一	環境反応論	都市工学 演習 A 第一	都市工学 演習 A 第一
4限			都市交通システム計画		
5限	空間情報学 I		Workshop towards Communicating Engineers		

3年 A1A2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限		まちづくり論		水質変換工学	
2限	都市計画史	都市経済		廃棄物資源循環学	都市安全計画
3限	上下水道システム	都市工学 演習 A 第二	産業・生活と環境技術	都市工学 演習 A 第二	都市工学 演習 A 第二
4限	都市開発プロジェクト論 (A1)		大気環境学 (A1)		
5限					

4年 S1S2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限		まちづくりと情報			Introduction to Sustainable Urban Engineering
2限		都市社会論		都市解析 (S1)	地区の計画とデザイン
3限	環境システム解析	都市工学 演習 A 第三	都市工学 演習 A 第三	国際環境公衆衛生 (S2)	都市工学 演習 A 第三
4限					
5限	アカデミック・ライティング (S1) アカデミック・プレゼンテーション (S2)	現代ツーリズム論 (S1)		技術論	

4年 A1A2 タームの標準的な時間割

	月	火	水	木	金
1限					
2限	卒業研究				
3限		卒業研究		卒業研究	卒業研究
4限					
5限			国際経済学		

※都市計画コースの学生は、上記の標準的な時間割に示した科目以外に、建築技術教育普及センターが確認した指定科目（建築学科提供科目を含む）を一定数履修することで一級建築士の受験資格を得ることができます。

習得すべき4つの力

認識力
まちを調べる

- 現状の空間を把握する
- 歴史や統計資料を読み込む

分析力
まちを分析・評価する

- 構造や成因を明らかにする
- 将来を予測する

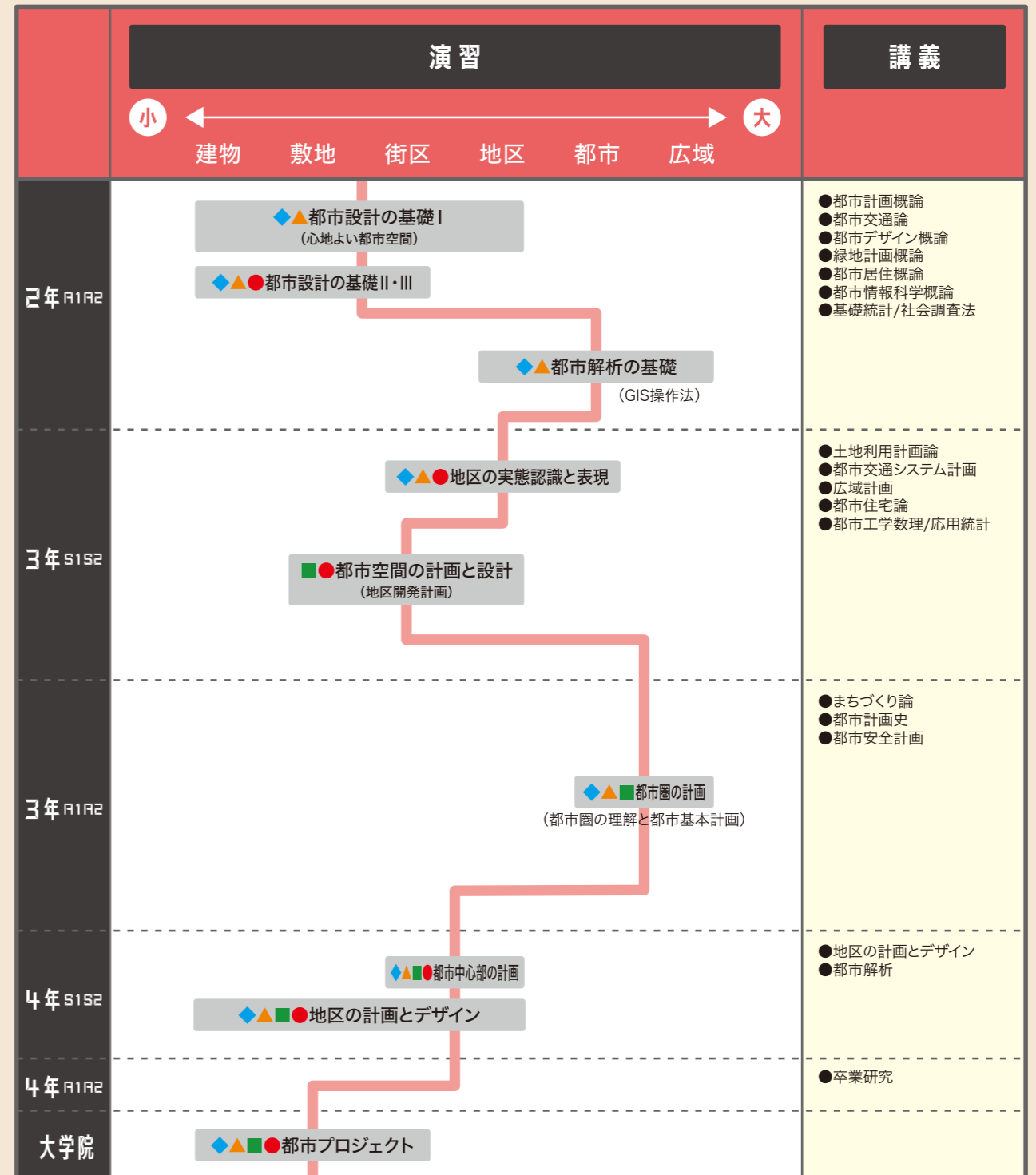
構想力
まちの将来像を構想する

- 様々な要求を把握し、整理する
- 解決策を考え、組み立てる

創造力
まちの空間をデザインする

- 具体的な空間を想像する
- 図面や模型で表現する

建物から国土まで、いろいろなスケールを体験する



※演習・講義の構成は、今後、若干変更される可能性があります。

2年 R1R2 都市工学設計製図



初めての設計課題は小規模集合住宅

■都市設計の基礎

都市計画コースの演習は、自分で見つけた「心地良い都市空間」の理由を探り、表現することから始まります。歴史が積み重なった東京の都市空間を題材に、都市を構成する道や建物の寸法を知り、図面を使って、空間を的確に描き、伝える能力を身につけます。グループで本郷キャンパス近くの対象敷地周辺の分析を行い、最後は小規模な公共空間と建物を設計します。多くの人が使う空間の計画技法は、都市デザインの基本であり、都市全体を対象とする都市計画コースの基礎となる演習の一つです。

■都市解析の基礎

都市解析の基礎—GISの操作法習熟と利用—では、コンピュータ上で地図と地理空間の属性情報をリンクさせて表示・解析できるシステム、地理情報システム [GIS: Geographical Information System] の操作法と、基礎的な都市解析手法を学びます。習得した技術を用いて土地利用や人口などに関する空間情報データ分析を行い、市街地の空間構成を視覚的に表現・考察します。



都市解析の基礎ではGISを習得します

様々な側面から対象地区を分析し、悩みつつも最適なプランを探り設計するという思考過程はとても刺激的で楽しいものでした。図面や模型など、多くの時間を要する作業もありますが、それらは学科内で親睦を深める良い機会でもありました。(3年生、R.W.)

学科に入ったばかりで右も左も分からない状態でしたが、都市を考える基礎的な部分を定性的、定量的両面について学びました。同じテーマなのに一人一人全く違う個性溢れる成果物に、都市の捉え方の多様さを感じました。(4年生、N.M.)

2年冬の演習では、製図の方法とGISの操作技術を学びました。どちらも初めてのことで大変でしたが、TAや先生方との対話を通じ、都市に対する自分の視点が身につきました。特にGIS演習では、都市の物理空間を高度な情報技術で読み解き表現する手法を知ったことで、都市の見方が大きく変わりました。(修士1年、T.Y.)

輪講等 都市工学輪講 / 都市工学グローバル輪講 / 都市工学の技術と倫理 / インターンシップ



現場力を鍛える都市工学実習

輪講は、あるテーマに沿って本や文献を読み、お互いに発表し合いながら学んでいく形の演習です。最新の知見を得るのはもちろんのこと、英語の文献を読んだり、あえて異分野の教科書に挑戦したりして幅広い知識の獲得を目指しています。グローバル輪講は、留学生を交えて行われ、英語を実践的に学ぶ機会にもなっています。インターンシップは、夏期休暇を利用して、都市工学に関連の深い企業や公的団体などで研修をさせていただくものです。授業で学んだ知識を現場で深めることが出来る機会として好評です。都市工学の技術と倫理では、都市工学科三年生の希望者を教員が引率し、都市工学に関連の深い場所を見学します。2014年度は、多自然型河川改修の事例、最新技術が導入された汚水処理場、ワインツーリズムによるまちづくりの現場、自然環境保全に取り組む飲料水工場を訪れ、豊かな自然と食文化を持つ地方都市における今後の都市工学のあり方について議論を交わしました。



歴史的建造物の中での街の方からの講義

インターンシップでは、興味があった土木系のコンサルタントに行くことができました。教科書や授業で学んだような方法で実際に計算を行なうプロセスを見ることができて大変勉強になりました。実習旅行では、東日本大震災で甚大な被害を受けた、石巻、気仙沼、陸前高田を訪れました。都市計画を学ぶ自分たちができることは何か、改めて考えさせられました。(4年生、M.A.)

輪講では、交通まちづくりの事例を調べて発表を行いました。事例を深く分析することで、交通が都市全体に及ぼす力を感じ取ることができました。また、研究室の雰囲気などを知る良い機会にもなりました。(4年生、O.Y.)

輪講では、それぞれが興味を持った都市計画に関する本をみんなで読んで話し合ったり、3Dパズルを設計したりしました。少人数で自由に行うので、演習とはまた違った面白さがあります。実習旅行では、同学年の友人そして引率の先生方との親睦を深められ、忘れられないものとなりました。(修士1年、I.T.)

3年 S1S2 都市工学演習 A 第一



首都圏の様々な地区の現地見学をします

■地区の実態認識と評価

この演習では、①多様な市街地実態の体験的認識、②地区・街区レベルでの空間の読み取り・把握・表現、③空間寸法・指標・空間実態の対応を目的としています。まず、東京の各種典型地区を見学し、その上で、ある地区を取り上げて空間寸法の実測や地区の空間を読み取って比較するグループワークを行います。

■都市空間の計画と設計

東京近郊の実際の敷地を対象に、住宅を中心とした再開発全体を計画します。対象地区の分析を行い、開発のコンセプトを設定し、住宅の間取りから建築デザイン・公共空間・道路に至るまで、都市空間を統合的にデザインする力を身につけます。首都圏の類似の住宅地開発の見学から、都市スケールの模型の制作まで、集中して取り組む、少しだけハードで思い出に残る設計演習です。



大規模集合住宅のジュリー（公表会）

地区の実態認識と評価では、実際に東京の様々なまちをフィールドワークすることで、まちのスケール感や特徴を捉えることが出来、東京の多様性を感じ取ることが出来ました。実際に見学した場所の断面図を描くことにより、図面を書くスキルや寸法の実測の方法などを細かく学ぶことが出来ました。(3年生、T.I.)

3年夏の演習で特に印象に残っているのは、集合住宅の設計演習です。ややタイトなスケジュールでしたが、人の行動が捉えられるレベルのスケールで設計・デザインをしたことは、後の演習でも大きな力となりました。(4年生、K.S.)

5haの敷地が与えられ、「集合住宅を構想しろ」と。右も左もわからない状態から、建物配置はどうか、ユニットはどうか、さらには入れるべき用途は何か、延々と悩み続ける。でも、それが最高に楽しい。(修士1年、K.N.)

3年 R1R2 都市工学演習 A 第二



東京圏の将来像はどうあるべきか、論理的に考えよう

■都市圏の計画I: 東京圏スケールの分析と構想

通勤や買い物などで市区町村や都県の境を越える移動・活動が日常的に行われている東京圏は、一体の都市"圏"と見なすことができます。そして私たちが直面している都市問題には、単一の自治体では解くことができず、都市圏全体として対処すべきものも少なくありません。この演習ではおよそ一都三県の区域を対象に、様々なデータや指標を用いて地域の人口や産業、交通、自然環境を分析する手法を学びながら、広域的な観点から東京圏の現状と課題を把握し、将来の空間像を提案します。

■都市圏の計画II: 都市基本計画

この演習では、首都圏のある一都市を対象として、都市形成・都市再生の概略の方針を定める都市基本計画(マスタープラン)を立案します。具体的には、まず都市の特性を把握するとともに、将来の人口・世帯数・交通量を推計して計画課題を整理します。その後、計画目標や方針を学生自らが設定し、必要となる都市計画的施策を検討するといった、現実の都市基本計画を策定するための多くの手順を演習内で習得します。



グループ作業で熱い議論

都市圏の計画Iは、これまでと違って打って変わって東京圏という広域を対象とする、抽象度の高い演習です。直接的な手段をあまり講じられず最初は戸惑いでしたが、人々のくらしをイメージしながら具体と抽象を行き来し、分析を進めるうちに、無機質なデータから様々な事実が浮かび上がってくるところが醍醐味です。(修士2年、H.O.)

演習時間内外で将来の都市像について学生同士議論する機会があり、都市や生活のあり方を真剣に考える仲間の意見に刺激を受けるとともに、自身も人口減少・少子高齢化社会における望ましい都市空間を再考する契機となりました。造成から運営へとその役割を変える中で既存の都市計画の限界を感じることもありましたが、知恵を出し合うことで新たな手法に挑戦するプランが仕上がりました。(3年生、G.Y.)

都市基本計画演習は、個人的には、「都市の総合性・複雑性をいかに表現するか」という試みだと思います。そのため、どの科類・学科の出身でもその知見を活かすことができますし、同時に、グループワークを通じて他の知見に触れる必要も生まれます。その協働の中で都市を紐解く作業は、都市に興味のある人にとって没頭できる内容だと思います。(3年生、T.K.)

4年 S1S2 都市工学演習 A 第三



魅力的な中心市街地を提案しよう



実際のまちづくりと運動した計画・設計を立てます

■都市中心部の計画・ダウンタウンプラン
 少子高齢・人口減少社会を迎えたわが国の中心市街地では、新旧の様々な課題に対応すると同時に、指向すべき価値を実現できる質の高い都市空間づくりが求められています。この演習では首都圏中核都市の中心市街地を対象に、データ分析や現地調査を通じて地区の特性と課題を把握し、コンセプトを固め、班メンバーの協働によって土地利用・市街地整備、交通、アーバンデザインの要素をあわせ持った計画を立案するプロセスを学びます。これまでの演習で習得した広域スケール・都市スケールでの理解を最大限に生かすことも要求されます。

■地区の計画とデザイン (旧名称: オムニバス演習)
 演習の締めくくり、集大成として、これまでの講義や演習で修得した技能を総動員して取り組む地区スケールの発展的課題です。学生は、各研究室が関わる実際の計画・デザイン活動とも一部運動した複数の課題の中から1つ選択し、8人程度のチームで取り組みます。近年では、都心商業業務地の再生デザイン、住宅系密集市街地の改善と魅力向上、郊外住宅地の持続的マネジメント、地方都市のコミュニティデザインなどのテーマを取り上げています。

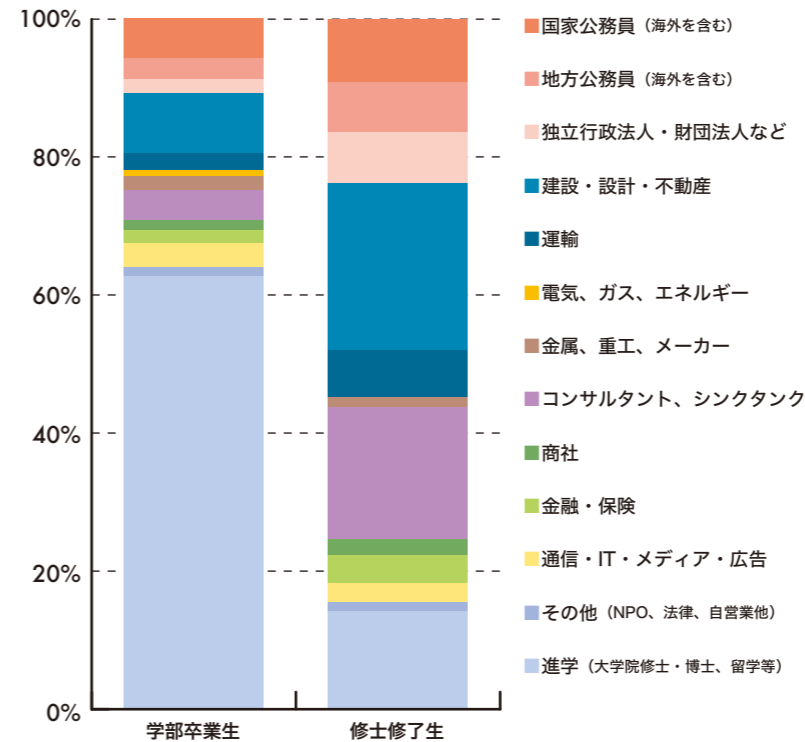
ダウンタウンプラン演習では、それまでに養った思考法や技術を駆使して、地区スケールのプランを作成することになります。4年生のこの時期には同期の友人たちに対する理解が深まっていることに加え、各人が得意な分野も持つようになっており、各々が持てる力を発揮してより深い議論を行うことができました。最も充実し、最も楽しい演習となりました。(4年生、G.K.)

オムニバス演習では、今までの演習で得た様々なスケールを横断的に見る力を生かすことができました。班での討議もかなり白熱しましたが、最終的には班員それぞれの力を生かす成果物が出来上がりました。(修士1年、S.H.)

オムニバス演習では、私は東日本大震災の被災地である両石を対象に復興計画を考えました。住民の方々の前で発表し、住民の方々と直接お話できたのは貴重な経験になりました。(卒業生、S.K.)

卒業後の進路 Course

過去10年の都市計画コースの学部卒業生と修士修了生の進路を図にしたものです。全般的に、公務員、建設・設計・不動産、運輸、コンサルタント・シンクタンク、商社への就職者が多いものの、金融・保険や通信・IT・メディア・広告まで、都市計画コースで身につけた広範な知識と柔軟な思考力を活かして、あらゆる分野で活躍しています。また、学部卒業後は、都市工学専攻をはじめ新領域創成科学研究科など他研究科・他専攻も含め、68%の学部卒業生が大学院へ進学しています。



就職先の例

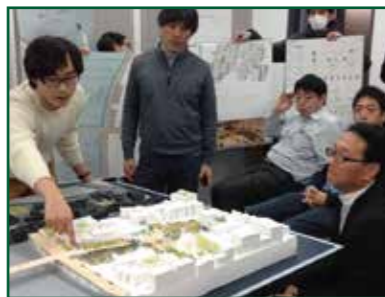
国土交通省	日本航空
経済産業省	日本IBM
厚生労働省	パナソニック
東京都	三菱総合研究所
新潟県	野村総合研究所
愛知県	日本総合研究所
横浜市	日本工営
名古屋市	西武ホールディングス
都市再生機構	パシフィックコンサルタンツ
国際協力機構	PWCコンサルタント
住宅金融支援機構	アクセンチュア
三菱地所	デロイトトーマツコンサルティング
三井不動産	アルテック
ヒューリック	構造計画研究所
森ビル	博報堂コンサルティング
東京建物	マッキンゼーアンドカンパニー
NTT都市開発	リクルートホールディングス
竹中工務店	住友商事
鹿島建設	三菱商事
日建建設	三菱UFJ銀行
鹿島建設	みずほフィナンシャルグループ
清水建設	大和証券
日本設計	シティグループ証券
久米設計	ゴールドマン・サックス証券
大成建設	大和証券
三菱地所設計	SMBC日興証券
東日本旅客鉄道	東京海上日動火災
東海旅客鉄道	NTTデータ
西日本旅客鉄道	ゼンリン
京浜急行電鉄	博報堂

4年 R1R2 卒業研究



卒業設計をする人も多いです

5月に研究室に配属になり、卒業研究に取り組みます。基本的に、卒業研究のテーマは、学生自身の関心に応じて決めることができます。各研究室に所属して、指導教員と相談しながら、研究計画の立案から実施、取りまとめ、プレゼンテーションまでを自分でマネジメントします。テーマによっては海外調査をすることもあります。限られた時間の中での研究は、時に大変なこともあります。その分、成し遂げた時の達成感是非常に大きなものがありますし、一生の思い出になるでしょう。2月上旬には卒業論文を提出し、同月中旬に発表会が行われています。



集大成のジュリー (講評会) は緊張します

卒業研究では、夏学期から研究室に入り、自分の興味に応じた先行研究や全国各地の事例を勉強できました。冬学期には、実際に市役所の方やバス事業者の方にお話を伺ったり、アンケートを取って定量的な分析を行ないました。自分の興味が決まったバス運営について、理解が深まりました。(修士1年、F.Y.)

私は卒業研究では、コンパクトシティへの誘導手法について研究を行いました。毎週の卒論会議で徐々にテーマを絞っていき、最後の数週間一気に書き上げました。発表会での先生方の鋭い指摘は、その後の研究にも生かすことができるものでした。(修士1年、Y.A.)

都市工の卒業研究は、他の理系の卒業研究とは異なり、テーマから全て自分で決めて取り組みました。同じ研究室の友人と一緒に悩みあひながら、先生方の御指導の下なんとか論文を書き上げられたことは、今後の糧となると思います。(修士1年、U.M.)

先輩からのメッセージ Message

高橋 理
2006年卒
不動産

ベトナムにて100haを超える都市開発を担当しています。言葉も文化も違う人と進める0からのまちづくり、必要な力は、自らの経験と価値観をもとに、開発者と来街者が共にワクワクするストーリーを描き、伝える力。都市工学科の目玉である都市課題演習を通じて運くまで仲間と語り合い、先生方と深く議論し鍛えたこれらの力が、今も自らの強みとして生きています。

秋月 優里
2018年卒
不動産

総合デベロッパーで、DXに携わる仕事をしています。リアルな場が欠かせないまちづくりの中で、DXで何ができるかを日々考えています。都市工で得た、様々な立場に立ってプロジェクトをまとめあげる経験、アイデアや構想・シナリオをわかりやすく提示しながら可能性を広げていく経験が現在の仕事でも役に立っています。

柄澤 薫冬
2014年卒
設計事務所

組織設計事務所にて、都心複合開発(車両基地の跡地活用や駅前再開発)や都市開発制度の設計などの都市計画コンサル業務に携わりつつ、副業的に、本郷の近くで中古ビルを購入・自ラリノベーションをし、ゲストハウス・バー等を営んでいます。理論と実践を軸に、演習等で学んだ計画力・調整力、そして場を楽しむ力が大変役に立っていると感じます。

後藤 裕瑛
2018年卒
コンサルタント

データ分析やシミュレーションを通じて自治体や企業の計画策定を支援する業務を担当しています。業務では、複雑に絡みあうステークホルダーそれぞれが納得できる提案が求められます。都市空間をさまざまなスケール、目線で捉え、あるべき姿を提案する都市工学科の学びは、まさに求められるものそのものだ日々感謝しながら過ごしています。

嶺南 達貴
2015年卒
スタートアップ

都市・地域のデジタルシフトを推進するスタートアップを経営しています。デザインからデータ解析まで多分野を束ね、マルチステークホルダー連携で成果を出してゆく、都市工特有の超学際アプローチが役立っています。各業界にいるアルムナイの存在も魅力で、どんなときも強力な味方になってくれます。

松村 優
2019年卒
国土交通省

住宅部局の空き家担当として、空き家を放置せずに解体・活用を促すための法律や予算制度を検討しています。密集市街地や中山間地域など地域類型ごとの対策を考える際に、都市工で色々なフィールドを多角的に分析し、将来像を検討した経験に助けられていると感じます。解決策の引き出しを柔軟に持ち、多様な立場に立って議論を尽くす姿勢は、今後も役に立つだろうと考えています。

教員紹介

Faculty

日本で、そして世界で活躍する、個性あふれる教員が、皆さんの進学をお待ちしています。よりよい都市空間・都市環境を創り出すために、ともに学びましょう。

(2024年4月1日現在)



都市水システム研究室 / Urban Water Systems

滝沢 智 教授
TAKIZAWA Satoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市水システム、都市域の地下水管理、浄水技術

担当科目 地球環境工学、環境反応論、応用統計、下水道システムイノベーション研究室兼任

安全・安心な生活を支える基盤として、また国際協力や水ビジネスとして注目を集めている都市の水システムを、技術と経営面から研究しています。

珠坪 一晃 教授
SYUTSUBO Kazuaki
国立環境研究所

専門 適地型排水処理、嫌気性消化、技術評価と実装

担当科目 大学院のみ

途上国や国内の地方都市では、経済的な理由などにより排水処理技術の導入や適切な維持管理が困難な状況にあります。省、創エネルギー型の技術の開発と実装研究を通じて、国内外の水環境保全に貢献しませんか。

鳥居 将太郎 助教
TORII Shotaro
工学系研究科都市工学専攻

専門 消毒技術、環境ウイルス学、環境衛生工学

担当科目 環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習 B 第二

環境問題の解決には学際的なアプローチが必要で、皆さんの個性は必ず強みとして生かされます。文理問わず多方面の事柄に興味がある方、国際色豊かな環境で研究に挑まれた方は大歓迎です！

サワンジャン ベンヤバ 特任助教
SAWANGJANG Benyapa
工学系研究科都市工学専攻

専門 水供給システム、地下水管理、環境工学

担当科目 大学院のみ

先進国、途上国を問わず、世界では水資源やその水質管理に関する問題に直面しています。都市環境工学は、これら環境問題解決に貢献する分野です。より良い世界にするために一緒に考えましょう。

地域循環共生システム研究室 / Regional Circulating and Ecological System

藤田 壮 教授
FUJITA Tsuyoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 脱炭素地域シナリオ、SDGs未来都市、都市産業共生システム

担当科目 都市環境概論、廃棄物資源循環学

脱炭素化や SDGs の目標達成に向けての社会転換を都市や地域で実現する理論や手法の研究をめざします。エネルギー、交通、資源循環、水・生態系環境と経済、社会の豊かさが共生する未来を一緒に考えましょう。

中谷 隼 准教授
NAKATANI Jun
工学系研究科都市工学専攻

専門 ライフサイクル評価、物質フロー分析、リサイクルシステム

担当科目 基礎統計、廃棄物資源循環学、環境システム解析、都市工学演習 B 第三

環境問題の解決のためには、科学技術だけでなく、それを最大限に活用する社会システムが必要です。私たちと一緒に、環境に優しい社会システムについて考えてみませんか？

林 徹 助教
HAYASHI Toru
工学系研究科都市工学専攻

専門 環境政策、環境システム

担当科目 環境計画基礎演習、都市工学演習 B 第三

環境問題、とりわけ脱炭素への取組は、成長へのエンジンともされ、社会経済の大変革に取り組むこととなっています。よりよい社会、地域へどのような施策を行えるか、一緒に考えてみませんか？

都市衛生工学研究室 / Environmental Public Health Engineering

片山 浩之 教授
KATAYAMA Hiroyuki
工学系研究科都市工学専攻

専門 水質衛生工学、上水道工学、環境微生物工学

担当科目 環境公衆衛生、上下水道システム、国際環境公衆衛生

都市環境工学は、これまでに学んだほとんどの科目の知識が役に立ちます。君たちの頭脳に蓄積された努力の成果を、ぜひ都市環境工学コースでフル活用してください。

橋本 崇史 准教授
HASHIMOTO Takashi
水環境工学研究センター

専門 浄水処理技術、アジア地域の水システム

担当科目 環境水質化学、環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習 B 第二、応用水理学

よりよい都市環境、よりよい社会の実現には、最先端の研究、それを具現化していくエンジニアリング、いずれも欠かせません。都市環境工学にはそのエッセンスが詰まっています。

水環境制御研究室 / Water Environment Technology

栗栖 太 教授
KURISU Futoshi
水環境工学研究センター

専門 環境汚染の微生物浄化、廃水の再生利用、未知汚染物質の追跡

担当科目 環境微生物工学、都市工学演習 B 第一

環境中には、まだまだ未知の世界が広がっています。安心して暮らせる社会を作るために、経験則から抜け出して行くには、きみの挑戦を待っています。

環境質リスク管理研究室 / Environmental Risk Management and Quality Control Technology

春日 郁朗 准教授
KASUGA Ikuro
先端科学技術研究センター

専門 生物学的水処理、環境微生物学、水環境工学

担当科目 水環境学、環境計画基礎演習、応用水理学

都市環境工学は、社会とそこに住む人をじっくりと見つめ、語りかける学問です。良いカウンセラーになるためのノウハウと一緒に学びましょう。

中島 典之 教授
NAKAJIMA Fumiya
環境安全研究センター

専門 生態毒理学、都市雨水管理、環境水質化学

担当科目 都市環境概論、大気環境学

環境管理には、個別の環境対策技術を極める人、全体を見渡して評価する人、両方が必要です。興味のある皆さんとの共同作業が楽しみです。

飛野 智宏 准教授
TOBINO Tomohiro
工学系研究科都市工学専攻

専門 環境微生物学、生物学的排水処理、微生物群集解析

担当科目 水環境学、廃棄物資源循環学、環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習 B 第二

人、もの、システムが一体となった都市の抱える課題は複雑ですが、その多様なアプローチで挑戦することができます。鳥の眼、虫の眼、魚の眼。いろいろな視点から新しい技術や考え方を一緒に提案しましょう。

都市サステイナビリティ学研究室 / Urban Sustainability Science

福士 謙介 教授
FUKUSHI Kensuke
未来ビジョン研究センター

専門 国際環境、健康リスク

担当科目 環境公衆衛生、国際環境公衆衛生

日本で最初の都市工学科で世界のみんなの役に立つ世界最先端レベルの研究を一緒にしませんか。GLP-GEFIL にも関わっています。

栗栖 聖 准教授
KURISU Kiyoko
工学系研究科都市工学専攻

専門 環境配慮行動、親水空間評価、住民意識、リスクコミュニケーション

担当科目 環境システム解析、環境計画基礎演習、都市工学演習 B 第三

環境工学という分野は、社会や人にきわめて近い立ち位置で、工学を扱える学問です。実際の社会を相手にする分、複雑な事象を扱うことにもなりますが、やりがいも大きいです。

社会生態システム研究室 / Social Ecological System

佐藤 弘泰 教授
SATO Hiroyasu
新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

専門 生物学的水処理、微生物生態系解析、省エネルギー型好気性下水処理

担当科目 環境微生物工学、水質変換工学

下水処理場の微生物世界をのぞいてみませんか？高速シークエンシング法など最新の手法を用いて、見えざる生態系を解き明かし、環境浄化に役立てましょう。

小貫 元治 准教授
ONUKI Motoharu
新領域創成科学研究科国際協力学専攻

専門 サステイナビリティ学、人口減少社会とインフラ、防災、技術と社会、サステイナビリティ教育

担当科目 都市工学演習 B 第一

社会の持続性を脅かす新たな課題が現れて来る中、過去に学び、自ら思考して、分野にとらわれることなく柔軟に対応できる力身につけましょう。

風間 しのぶ 准教授
KAZAMA Shinobu
新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

専門 環境ウイルス学、途上国の水と衛生、環境衛生工学

担当科目 都市工学演習 B 第一

私たちの生活を支える水環境が、現在、そして将来抱える問題の解決に向けて一緒に考えてみませんか？みなさんの柔軟な発想に期待しています。

下水道システムイノベーション研究室 / Sewerage System Innovation

加藤 裕之 特任准教授
KATO Hiroyuki
工学系研究科都市工学専攻

専門 下水道システム、水環境政策・ビジネス、下水道資源利用

担当科目 上下水道システム、都市工学演習 B 第二

日本の下水道システムは地域エネルギー・防災拠点への転換が進んでいます。都市の水環境と資源循環、ゲリラ豪雨対策、そして国際展開に関する政策、技術、ビジネスのあり方を共に考えましょう。

フアム ビエットズン 特任助教
PHAM Viet Dung
工学系研究科都市工学専攻

専門 下水道システム、水産・農業における下水道資源の再利用、環境リスク評価

担当科目 環境工学実験演習第一・第二、都市工学演習 B 第二

農業において下水処理水、栄養素、エネルギー資源を適切に再利用して、水利用ストレスや環境汚染を緩和し、地域の持続可能な開発のための食料生産の革新的な価値を促進する方法を考えましょう。

国際下水道疫学研究室 / International Wastewater-based Epidemiology

北島 正章 特任教授
KITAJIMA Masaaki
水環境工学研究センター

専門 環境ウイルス学、下水道疫学、微生物リスク管理

担当科目 環境公衆衛生、国際環境公衆衛生、環境計画基礎演習

下水道をうまく活用して都市レベルで感染リスクを可視化することで、感染症に強い社会の構築に寄与できます。今、社会に求められている新しい学問分野と一緒に開拓しましょう。

リュウ ミヤオミヤオ 特任助教
LIU MiaoMiao
水環境工学研究センター

専門 環境微生物学、下水道疫学、水処理技術

担当科目 環境工学実験演習第一

公衆衛生状態が下水を通じて診断できると想像してみてください。それが「下水道疫学」の役割です。この人口全体に及ぶツールを活用して、病原菌、ウイルス、抗生物質耐性から公衆衛生を守るために一緒に頑張りましょう。





都市計画研究室 / Urban Land Use Planning

村山 顕人 准教授
MURAYAMA Akito
工学系研究科都市工学専攻

専門 環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法

担当科目 土地利用計画論、地区の計画とデザイン、都市工学演習A

現状分析や将来予測を行い、多様な主体の意向や活動を理解しながら、都市の空間形成にかかわる計画を立案するプランニングは、持続可能な安全安心社会をつくる上で重要な仕事です。次世代のプランナーを目指しませんか。

真鍋 陸太郎 准教授
MANABE Rikutarō
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市の情報、ICTとまちづくり、まちづくりDX

担当科目 まちづくりと情報、都市工学設計製図、都市工学演習A

ICTの進展は都市計画・まちづくりに大きな影響を与えています。最先端の技術と都市を形づくる制度との関係を考えてみましょう。

都市情報・安全システム研究室 / Urban Information Safety

加藤 孝明 教授
KATO Takaaki
生産技術研究所

専門 地域安全システム学、減災・復興まちづくり、自然災害リスク評価、計画支援システム

担当科目 都市工学演習A

「創る」、「しくみを創る」、「空間を創る」、「暮らしを創る」、「人生を創る」。大局的かつ鋭敏な時代感覚、コミュニケーション能力、評価技術で都市・地域を創る。

廣井 悠 教授
HIROI U
先端科学技術研究センター

専門 都市防災、自然災害リスク

担当科目 都市安全計画、都市工学演習A、都市工学数理、社会調査法

安全・安心な都市空間を創るためには、複雑に構成された都市・社会の本質を探求し、科学的に問題解決を試みようとする熱意が何より重要です。みなさんの新鮮な想像力で、未知の学問領域を一緒に切り拓いてみませんか？

国際都市計画・地域計画研究室 / International Development & Regional Planning

瀬田 史彦 准教授
SETA Fumihiko
工学系研究科都市工学専攻

専門 人口減少局面の国土・地域・都市政策

担当科目 広域計画、現代ツーリズム論、社会調査法、都市工学演習A

都市の論理は大きく変わろうとしています。既存の固定観念にとらわれず、自分の体で感じ、頭で考えたことを素直に、そして正確に表現し、それらを仲間同士でぶつけ合ってみてください。

都市デザイン研究室 / Urban Design

似内 遼一 助教
NITANAI Ryoichi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市計画、高齢社会対応のまちづくり、地域戦略

担当科目 都市工学演習A

都市や地域の文脈と空間を読み解き、社会の要請に合わせてその構造を変化させる戦略づくりが求められています。多角的・俯瞰的な視点を培い、多様な人と計画を作っていくためのスキルを身につけることを目指しましょう。

中島 直人 教授
NAKAJIMA Naoto
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市デザイン、都市論、都市計画史

担当科目 都市計画史、地区の計画とデザイン、都市工学設計製図、都市工学演習A

身近な環境を楽しむことから始まり、社会的課題の解決へと広がっていく学問、実践の世界があります。都市の過去と現在、未来をつなげることで動き出す物語があります。この世界、この物語と一緒に探求しませんか。

永野 真義 助教
NAGANO Masayoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市デザイン、空間デザイン、建築デザイン

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

都市空間をデザインし、自分も含めた皆でその空間を楽しむ。地域の次世代の価値になる。そうした一連の実践とノウハウの蓄積を目指しています。

都市交通研究室 / Urban Transportation

蕭 耕偉 准教授
SHO Kojiro
工学系研究科都市工学専攻

専門 アジア都市空間論、ジェントリフィケーション論、参加型まちづくり

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

都市には明るい空間もあれば光の当たらない空間もあり、こうした都市空間の多様性こそがその魅力と醍醐味である。異なる人間の文化や営みによって生まれてくる様々な都市空間の面白さを是非一緒に探求しましょう。

高見 淳史 准教授
TAKAMI Kiyoshi
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画

担当科目 都市交通システム計画、都市交通論、応用統計、都市工学演習A、地区の計画とデザイン

交通は都市生活を支える大事一要素です。人が暮らしやすく社会的にも望ましい都市のかたちと、それを実現するしくみを考えることが、都市工学で交通を学ぶことの醍醐味だと考えています。

パラディジャンカルロス 講師
PARADY Giancarlo
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市交通計画、交通行動分析、社会的ネットワーク分析

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A、都市交通論、応用統計

「人間」、「空間」、「移動」そのもの、そしてその相互関係を理解することこそが、都市工学という分野です。美しく、魅力ある、そしてしぶといまちを創るための鍵はこの理解にあります。一緒に考えて深めていきましょう。

住宅・都市解析研究室 / Housing and Urban Analysis

青木 公隆 特任助教
AOKI Kimitaka
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市デザイン、建築デザイン、エリアマネジメント

担当科目 地区の計画とデザイン、都市工学設計製図、都市工学演習A

様々な都市の体験と学びを通じて、身体スケールから都市スケールまでの構想力を育て、次世代に引き継がれるような都市デザインと一緒に考えましょう。

浅見 泰司 教授
ASAMI Yasushi
工学系研究科都市工学専攻

専門 空間情報解析、都市計画、都市住宅学

担当科目 都市住宅論、都市解析、都市工学演習A、都市工学設計製図

生物の営みをシステムとしてとらえると、その合理性と総合性に感嘆させられます。都市の様々なシステムをそのような観点から再構築していきませんか。

貞広 幸雄 教授
SADAIHIRO Yukio
情報学環

専門 都市解析、空間情報科学、地理情報システム

担当科目 都市情報科学概論、都市工学演習A

電子地図やGPSなど、テクノロジーの発達は都市計画の進化に大きく貢献しています。今後更に発達する科学技術を、都市生活にどう活用できるか、一緒に考えてみませんか？

環境デザイン研究室 / Environmental Design

坂本 慧介 助教
SAKAMOTO Keisuke
工学系研究科都市工学専攻

専門 人口減少時代の都市・緑地計画、都市・空間解析

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

おもしろい、ということ。例えば、ある敷地に元から一本の木が立っています。切るのは簡単、切れば設計の自由度は上がります。けれども、木を残す、曲がった道ができる。そんなおもしろさを共有できれば嬉しいです。

飯田 晶子 特任講師
IIDA Akiko
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市生態学、緑地計画、ランドスケープデザイン

担当科目 緑地計画概論、都市工学演習A

気候変動や生物多様性などの課題を背景に、都市の自然や生態系が着目されています。私たちは、都市の自然を理解し、計画・デザインに組み込むことで、都市課題にアプローチしています。正解がないからこそ、クリエイティブで楽しい学問です！

空間デザイン研究室 / Spatial Design

出口 敦 教授
DEGUCHI Atsushi
新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻

専門 都市再生、スマートシティ、エリアマネジメント

担当科目 都市デザイン概論、都市工学演習A

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である」というダーウィンの言葉は、果たして都市にも当てはまるのか？変化の力を利用して都市を進化させていく空間デザインを共に考えてみたい。

まちづくり研究室 / Community Design, Planning and Management

樋野 公宏 准教授
HINO Kimihiro
工学系研究科都市工学専攻

専門 居住セキュリティ、都市居住・住環境

担当科目 都市居住概論、社会調査法、都市解析、地区の計画とデザイン、都市工学演習A、都市工学設計製図

人口減少、高齢化を背景として住環境の「安全・安心」がかつてなく求められています。空き家対策、高齢者の安心居住、都市防災、健康まちづくりなどのテーマについて一緒に考えましょう。

別所 あかね 助教
BESSHO Akane
工学系研究科都市工学専攻

専門 包摂都市論、都市農業、多文化共生、ノーマライゼーション

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

都市は、多様な人々が集まり共に暮らす場所です。様々な側面から都市を見つめ、地域資源を活かしたインクルーシブなまちづくり・場づくりのあり方を一緒に模索しませんか。

西 颯人 特任講師
NISHI Hayato
工学系研究科都市工学専攻

専門 統計的都市解析、空間統計解析、住宅・不動産市場分析

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

情報技術の発展により、都市空間上のさまざまな情報が得られるようになりました。データという眼鏡を通して、都市現象の裏側を覗く方法を考えてみませんか。

小泉 秀樹 教授
KOIZUMI Hideki
工学系研究科都市工学専攻

専門 コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン

担当科目 まちづくり論、地区の計画とデザイン、都市工学演習A

コミュニティをデザインすることはできるだろうか？少子高齢社会におけるコミュニティのあり方とそこへの到達手段について一緒に考えてみませんか。

新 雄太 特任助教
SHIN Yuta
工学系研究科都市工学専攻

専門 建築設計・意匠、農村計画、まちづくり

担当科目 都市工学設計製図、都市工学演習A

同じものでも視点を変えると、新たな価値を生み出すことができます。現場での対話や直接体験を通じて、次代へ繋ぐ都市や農村のあり方をともに考えましょう。

中島 弘貴 特任講師
NAKAJIMA Hiroki
工学系研究科都市工学専攻

専門 都市ガバナンス、リジェネラティブ・デザイン

担当科目 都市工学演習A

都市に関する学問は多岐にわたる、それらを学び、実践することに面白みを感じます。様々な人々と議論しながら、自分なりの視点で知を組み合わせ、かたちにしてみませんか。

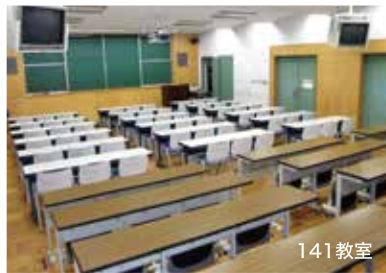




工学部14号館



学生実験室



141教室



図書室



222号室



演習室



卒業研究ジュリー



東京大学工学部都市工学科

Department of Urban Engineering, the University of Tokyo



〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL : 03-5841-6216

FAX : 03-5841-0370

URL : <https://www.due.t.u-tokyo.ac.jp>